

尹卓：中露の海上軍事演習は、場所の選択から見て日本威嚇の狙いがある。

ソース：人民網 軍事チャンネル

(訳者コメント)

7月5日～12日まで、日本海に面したウラジヴォストーク近海のピョートル大帝湾付近の海空域で中露の海上軍事演習が行われます。

最近の日中関係から、中国は人民網のホームページなどで誇大に報道し、また人民日報日本語版などでも大きく宣伝しています。演習の場所選定や規模で中国はかなり注文をつけたのではないのでしょうか。

この演習について中国の軍事評論家尹卓（ペンネーム）は、人民網上で、演習地域が日本海であり日本に近いので演習の目的は日本への威嚇であると述べています。

日本のマスメディアは、参院選挙を慮ってか、今のところ大きく報道していません。

人民網北京7月3日電：

7月1日、中露双方は、ニックネーム“海上聯合 2013”と称する中露の海上聯合軍事演習を7月5日に日本海のピョートル大帝湾海域で開始することを宣言した。

2日の北京中央テレビ番組“環球視線”の報道によると、軍事専門家尹卓は、“今回の中露海上聯合軍事演習の演習地域の選択と演習科目は一定の意味がある。演習地域に日本海を選択したことは、双方の軍事目的がますます接近し、日本に対する威嚇であることを示している。演習科目が機密度の高い対潜訓練であることは、両国の軍事協力及び相互信頼が高レベルに達したことを示している”と述べた。

昨年の中露両国海軍の黄海における聯合軍事演習に引き続き、今年は7月5日から12日の間、ニックネーム“海上聯合 2013”と称する中露の海上聯合軍事演習が日本海のピョートル大帝湾海空域で実施される。

尹卓の分析によると、今回の海上聯合軍事演習の演習地域の選択と演習科目は一定の意味がある。なぜなら今回の中露演習の地点は日本海であり、距離が日本に近い。

最近の日露間の北方四島及び日中間の釣魚島問題の争いを考慮すると、中露双

方が同地域での軍事演習を選択したことは、双方の軍事路線がますます接近し、演習が日本に対する威嚇であることを示している。当然、中露軍事演習自身は如何なる第三国をも威嚇することを狙ってはいないが、演習地域の選択は、双方が真剣に協議したうえで決定したことは明らかだ。

その他、演習科目について見ると、ロシアは、静音潜水艦及び“无畏”級大型対潜艦を参加させた。このことは、中露の海上聯合軍事演習に対潜科目があることを示している。しかも対潜作戦に使用される対潜ソナー等の水中機器は機密情報に属することから、従来対潜科目は各国海軍の秘密度が最も高い演習科目であり、一般的に他国と交流することはない。例えば、米国がアジア地区で対潜演習を行う際には、日本及び韓国を除きその他の国家と交流することはない。フィリピンやタイ国のように一般に米国の対潜演習には参加しない。

尹卓は、中国とロシアの海軍が対潜演習を行うことは双方の軍事協力、軍事交流、相互信頼方面が更に高いレベルに達したことを示していると述べた。

演習の規模：

中国海軍北海艦隊及び南海艦隊：

駆逐艦 4、護衛艦 2、総合補給艦 1、艦載ヘリ 3 機、特戦分隊 1

ロシア海軍太平洋艦隊：

各型水上艦艇 11、潜水艦 1、固定翼機 3 機、艦載ヘリ 2 機、特戦分隊 1

演習項目：聯合防衛作戦、武器使用、閱兵

(闫嘉琪)